

非常に高価なファッション、ドレスが売買されている。贅沢な文化なんですね。

③あらゆる香木、あらゆる象牙細工、高価な木材や青銅や鉄や大理石で造ったあらゆる器具▶美術品。アート。

経済がバブルになった時の特徴は何でしょうか。アートが破格の値上がりをするということですね。1枚の絵が80億円・90億円・100億円、どんどん上がっていく。鑑賞よりも、ある意味資産です。このようなアートが売買される時代です。

④シナモン、香料、香、香油、乳香▶コスメティックス。化粧品。

バビロンが代表するこの時代の風潮は、外見的な美が過大評価される文化・文明であり、こういう物が高値で売買されるのです。

⑤ぶどう酒▶嗜好品。アルコールや嗜好品全体を意味していると思います。

⑥オリーブ油、小麦粉、小麦、家畜、羊▶食料。グルメの時代がまた到来します。

⑦馬、馬車▶ステータスになるような非常に高価な乗り物。

乗っている車によって、その人の年収が大体分かるんじゃないですか。マイバッハなんか乗っていたら「すごいなあ！」なるんじゃないですか。今で言うならスーパーカーですよ。

この当時はそういうものはないけど、ローマ皇帝が乗るような馬車は贅を凝らしていたんですね。

⑧奴隷、それに人のいのち

これが問題なんです。奴隷はギリシア語でゾーマトーン。直訳は肉体。体。

もっと言うと体のパーツ。これが売買される。それだけでなく、人のいのちが売買される。

この紹介で何が分かるんでしょうか。

バビロンが首都である反キリスト帝国・艱難時代後半の3年半は、いったいどんな時代なのか。

極限まで贅沢に暮らしている人たちがいるかと思うと、商品になっている人間がいる。

自分の肉体や命が売買されてしまう人たちがいる。つまり、二極分化の時代なんです。

反キリスト帝国で贅沢の極みまで行っている人たちは、反キリストに屈服する人たちです。

反キリストに屈服しない人たちは、具体的には艱難時代にイエス・キリストを見出し、いや見出され、救い主として信じた人たちです。彼らは反キリストを神として拝みません。たとえ殉教の脅しがあっても、拝むことはないのです。なので、大変な酷い仕打ちを受けるんですね。

ただ殺されるだけでなく、奴隷にされたり、身体が切り売りされてしまうことが行われている。

それをほのめかしているんです。

今は艱難時代ではありませんね。まだ恵みの時代です。

しかし、今の時代でも、既に臓器が売買されていることをご存知ですか。

皆さんの中に、手術を経験した方がおられるかもしれません。その手術で何かアクシデントがあった場合は緊急輸血がなされますね。その血液は、日本ではどうやって手に入れているのでしょうか。実は医学的見地では、血液は臓器の一つなんです。

私たちは臓器というと胃・肺・心臓などをイメージしますが、医学的には血液は動く臓器です。これは献血で賄われているのでしょうか。いや。日本は少子高齢化だし、献血に協力的な人は本当に少ない。輸血用血液は圧倒的に不足してるんです。でも、今のところ回っているじゃないですか。日本は血液を輸入してるんです。海外から血液を買っている。金出して。

どこからの血液が一番多いのでしょうか。中国です。中国の人たちが自発的に献血して、その血を買っているなら、これはある意味売血です。日本では売血は禁止されていますが、それはそれでいいかもしれません。しかし、本人の意思に反して奪い取られているなら、これは大問題ではないかと思うんです。

なぜそんなことを言うのかというと、中国では政治犯として収容されている人たちの肉体から臓器が抜き取られ、売買され、移植に利用されていることが判明しているからです。ウイグルの人たちや法輪功の人たちが強制収容所に入れられて、臓器を抜き取られている。そのようなことに加担した医者が良心に苛まれて亡命し、洗いざらい全部告白しているレポートが、今飛び交っているではありませんか。今の時代でも、絶対権力者に逆らう人たちは商品になっているんですね。

肉体がパーツとして売り買いされている。それだけでなく、人のいのちと書いてあります。命を殺めなければ取り出すことが出来ないパーツがある、ということかもしれません。

いずれにしても恐ろしい時代。反キリストに繋がるなら究極の贅沢を経験できるけど、逆らうならどうにもならなくなる。地上的には絶体絶命の生涯が始まる。これが艱難時代の特徴なのです。

もう1つの特徴。バビロンが一瞬で滅んだ時、商人たちはある反応を示しました。

黙示録 18 章

15 これらの物を商って彼女から富を得ていた商人たちは、彼女の苦しみと恐れをなして、遠く離れて立ち、泣き悲しんで言う。

16 「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都よ。亜麻布、紫布、緋色の布をまとい、金、宝石、真珠で身を飾っていたが、

17 あれほどの富が、一瞬にして荒廃に帰ってしまった。」

地の商人たちは今までぼろ儲けしていたんです。彼らは政商なんですよ。

政商とは、政府と結託することによって特別の利権を得て儲ける商人たち。

この時代、反キリストを拝まない者は売り買いできません。

反キリストを表す 666 の数字を、額か手に刻印していない者は売買できないんです。

逆に、自ら進んで反キリストに屈服していくような商人たち・国際貿易に関わる者たちは、ここでしこたま儲けるんでしょう。しかし、この都が滅ぶことで、彼らは儲ける術がなくなってしまった。

神の裁きがバビロンに下って、一瞬にして壊滅する。それを目の当たりにした時、彼らは「富が無くなった！」と言って悲しむんです。神の裁きを見て、悔い改めによって生じる恐れで「ああ、神よ、私を助けてください」という悲しみではないんです。あくまでも、彼らの悲しみは儲ける術がなくなったことだけ。神の裁きに対して恐れを感じる、という感覚が麻痺しているのです。

もはや、悔い改めることが出来ないコンディションになっているんですね。

伝道者の書 7 章

**14 順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。これもあれも、神のなさること。
後（のち）のことを人に分からせないためである。**

順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。

うまくいかなくなった時、「どうしてなのか。この行き詰まりの状況の中で、全知全能の神は何か大事なことを気づかせようとなさっているのではないか。この逆境を通して今、心を神に向けるべきではないのか。神が私に今、悟らせたいと思っていることは何なのか。」

このように創造主に心に向けることが出来たら、どんなに素晴らしい変化があるだろうか、とも思うのです。

私たちはまだ恵みの時代に生きていますが、艱難時代に向かって刻一刻と進んでいます。

今の時代、既に聖書預言が次々実現しているのではないのでしょうか。

黙示録を見ることによって、艱難時代の兆しとなるようなものを、ここかしこに見ることが出来ると思います。これはいったいどういうことなのか。このような情報を知ることによって、創造主は私に何を語っておられるのか、ぜひ考えていただいたら素晴らしいと思います。

心を神に向けて、ぜひ神を求めてください。

創造主の神の前に立ち返ってくださるように、心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017